

静岡市立大谷小学校

静岡県埋蔵文化財センター

令和6年7月4日(木)

出前授業レポート

「詳しく説明してくれたり、実際に体験させてくれたりして、昔の道具や昔の人々のすごさを肌で感じる事ができたと思います。」

静岡市立大谷小学校の6年生68人が、社会科の学習を深める目的で、土器の分類、石器の試し切り・火起こしの3つの体験を行いました。

土器の分類体験

土器の分類と石器の試し切りの2つを40分で行うため、十分な説明もできませんでしたが、縄文土器と弥生土器の違いを気候の違いが関わっていたことや、須恵器は作り方の違いが大きく関わっていることを話しました。特徴が分かった分類がスムーズにいきました。本物の土器に触れて、うれしそうです。

「授業で写真は見たけれど、実際に触って見ることができて嬉しかったです。」



石器の試し切り体験

発掘された本物の打製石器や磨製石器から旧石器時代や縄文時代の人々の暮らしを想起して、金属がない時代には石でいろいろなことをしていたことが理解できたようです。黒曜石がナイフや弓矢の鏃などに使われていたことを知り、実際にどれだけ切れるのかを試してみました。石で物が切れるなんて思ってもいなかった子どもたちは、意外によく切れて驚いていました。

「切れ味がすごくてびっくりしました。」



火起こし体験

火起こし体験をしたことがある子が学級に5～6人程度いましたが、やったことがない子が多かったので、興味深く試技を見て、その後火起こしをしました。この日はあいにく風が強くてせっかく作った火種が飛んでしまうこともあり、難しい条件の中でしたが、頑張って火を起こすことができました。弾み車を調子よく回すことができると楽しくなってきたようです。

「すごく難しかったです。昔の人はすごいなと思いました。」

火種に息を吹きかける難しさが理解できたようです。



先生方の感想

「詳しく説明してくれたり、実際に体験させてくれたりして、昔の道具や昔の人々のすごさを肌で感じる事ができたと思います。体験をたっぷりできて良かったです。センターの職員さんは、クイズを出してくれたり、イラストを用いたり、わかりやすく説明してくれたと思います。子どもたちはとても楽しんで活動に参加できたようです。ありがとうございました。」

